

これからの社会で求められる教育のあり方を考える

林 明夫

(学校と企業・経営者の
交流活動推進委員会)

1. はじめに

(1) 自己紹介

株式会社開倫塾 代表取締役社長

マニー株式会社(ジャスダック・Jストック、手術用縫合針製造)社外取締役

栃木県社会教育委員

宇都宮大学大学院工学研究科客員教授

開倫ユネスコ協会 会長

(2) 本日の議論のねらい

100年に一度といわれるような大不況の下で、保護者の皆様とこれからの社会で求められる教育のあり方、とりわけ「一人ひとりの人生の成功」と「持続可能な社会の形成」に資する能力とは何かを考える。

2. これからの社会で求められる鍵となるような基本的能力(キー・コンピテンシー)とは

(1) 「知識基盤型社会」では、「知識・情報・技術など知的な道具を相互作用的に用いる能力」が求められる。

学校での勉強を理解し、十分身につけ、社会で役立てることができる。

コンピュータを仕事や生活で活用できる。

専門分野の深い知識に基づいた技術をもつ。

(2) 「グローバル化社会」では、「多様な集団で交流できる能力」が求められる。

自分のよさ、地域・日本のよさを知ると同時に、相手のよさを素直に受け入れられる。

英語やその他の言語によるコミュニケーションができる。

争いを起こさない、争いを収められる。

(3) 「高齢化社会、大不況下の社会」では、「自律的に活動できる能力」が求められる。

「高い志」をもった上で、「ルール」の中で活動できる。

働きがいのある人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)に就き、収入の範囲で支出できる。

批判的思考能力をもち、自己責任・自助努力で行動できる。

3. 鍵となる基本的能力(キー・コンピテンシー)を身につける前提

- (1) 「学び方を学ぶ」能力を身につけていること(Learning To Learn ラーニング・トゥ・ラーン)
 - 「理解」の仕方(授業の受け方、人の話の聴き方、ノートの取り方、辞書の使い方...)
 - 「定着」の仕方(音読練習、書き取り練習、計算・問題練習の仕方)
 - 「応用」の仕方(テストでの得点の仕方、社会での活用の仕方)

- (2) 「読書」による熟慮、熟考、省察する力を身につけていること

学力の高さは本人の自覚と読書の量が大きく影響する。

「新聞を読んで考える」ことも、批判的思考能力を身につけることに役立つ。

- 小学生は 20 分、中学生は 40 分、高校生は 1 時間以上、新聞を読んで考えよう -

「書き抜き読書ノート」(本や新聞などを読んでいて、気に入ったところがあったら書き抜いて繰り返し読む)

4. おわりに - 私の好きな言葉 -

- (1) 「一生勉強、一生青春」 (相田みつを先生)
- (2) 「教育ある人とは一生勉強し続ける人」 (ドラッカー先生)
- (3) 「人生逃げ場なし、捨てなければ得られない」 (石川洋先生)
- (4) 「いつまでも若々しく生きる」 (中村天風先生)
- (5) 「健康第一」...心の健康、身体の健康

*お願い

家庭では「躰(しつけ)教育」を(「美しい立ち居振る舞い」「敬語表現を含む言葉遣い」)

御清聴を感謝申し上げます。

- 2009年3月6日記 -